



Well-Architected レビューワークショップ

ニッセイ情報テクノロジー様

アマゾンウェブサービスジャパン合同会社
プロフェッショナルサービス本部

はじめに – 全体スケジュール

10:00	オープニング, W-A概要説明
11:00	個人ワーク(As-Is整理)
12:00	昼休憩
13:00	グループワークの実施 (To-Be検討)
14:00	
15:15	
15:15 – 16:30	検討内容の発表
16:40 - 17:00	模範回答例の紹介
17:00 - 17:20	各チームへのフィードバック/QA
17:20 - 17:30	クロージング
17:30 - 18:00	ご要望に応じて、QA対応(自由解散)

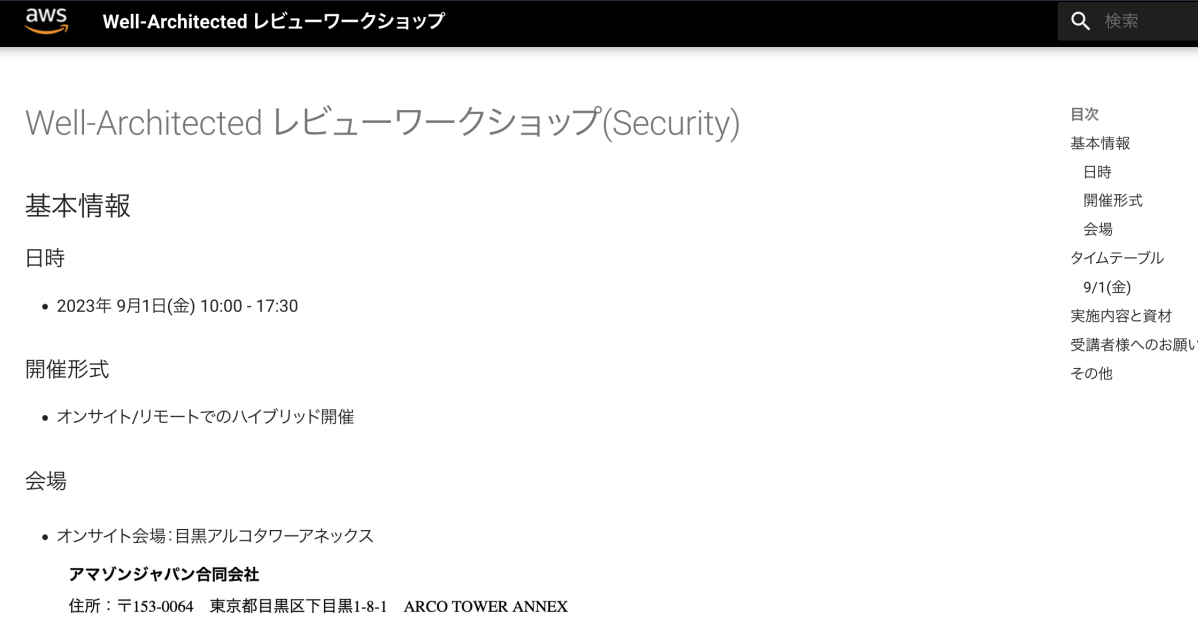
はじめに – 専用サイト

以下の URL からワークショップの専用サイトにアクセスしてください
(ブックマーク済み)

<https://main.d30ar0kim7bjoy.amplifyapp.com/>

ユーザ : awswaworkshop
パスワード : 20230901

- ✓ 講義資料のダウンロードが可能
- ✓ 会場情報やスケジュールの確認が可能



aws Well-Architected レビューワークショップ

Well-Architected レビューワークショップ (Security)

基本情報

日時

- 2023年 9月1日(金) 10:00 - 17:30

開催形式

- オンサイト/リモートでのハイブリッド開催

会場

- オンサイト会場: 目黒アルコタワーアネックス

アマゾンジャパン合同会社

住所: 〒153-0064 東京都目黒区下目黒1-8-1 ARCO TOWER ANNEX

目次

- 基本情報
- 日時
- 開催形式
- 会場
- タイムテーブル
- 9/1(金)
- 実施内容と資料
- 受講者様へのお願い
- その他

オープニング, W-A概要説明

10:00	オープニング, W-A概要説明
11:00	個人ワーク(As-Is整理)
12:00	昼休憩
13:00	グループワークの実施 (To-Be検討)
14:00	
15:15	
15:15 - 16:30	
16:40 - 17:00	検討内容の発表
17:00 - 17:20	模範回答例の紹介
17:20 - 17:30	各チームへのフィードバック/QA
17:30 - 18:00	クロージング
	ご要望に応じて、QA対応(自由解散)

オープニングアジェンダ

- 事務局(NIT住木様)より一言
- AWSメンバー紹介
- 取り組みの目的と概要
- Well-Architected Frameworkのご紹介
- 課題の紹介と取り組み方

オープニングアジェンダ

- 事務局(NIT住木様)より一言
- AWSメンバー紹介
- 取り組みの目的と概要
- Well-Architected Frameworkのご紹介
- 課題の紹介と取り組み方

オープニングアジェンダ

- 事務局(NIT住木様)より一言
- **AWSメンバー紹介**
- 取り組みの目的と概要
- Well-Architected Frameworkのご紹介
- 課題の紹介と取り組み方

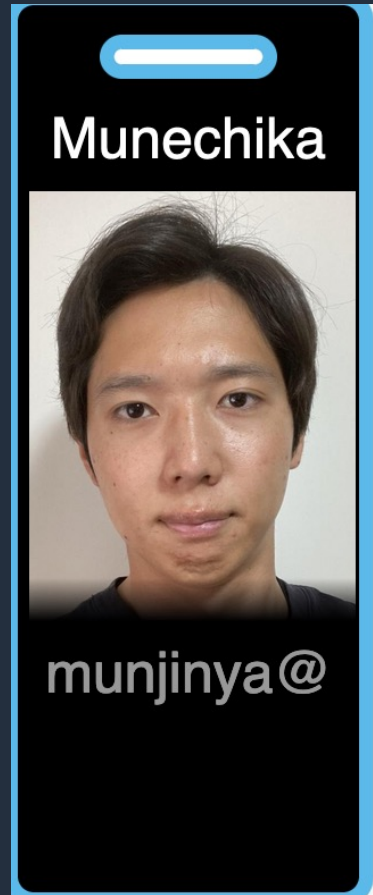
Professional Services (ProServe) とは

AWSクラウドを使用して期待するビジネス上の成果を実現するようお客様をサポートできる、専門家からなるグローバルチームです

ProServeの特徴

- AWS導入/利活用を加速させる
有償のコンサルティングサービスとしてご提供
- AWS技術領域に高度に特化
- エンタープライズ、政府組織、SIerなど
広範囲で利用いただいている
- 期間とスコープを定めたプロジェクトベースの支援

本日の司会・進行



棟近 仁也

Infra Structure Architect - Migration

【直近の参画プロジェクト】

- 消費財メーカー様向け 大規模システム移行支援
- 流通小売業界様向け DB移行支援

【好きなAWSサービス】

- Redshift, Direct Connect

サポートメンバーの紹介（1/2）



吉濱 佐知子

Sr. Bigdata Consultant

【直近の参画プロジェクト】

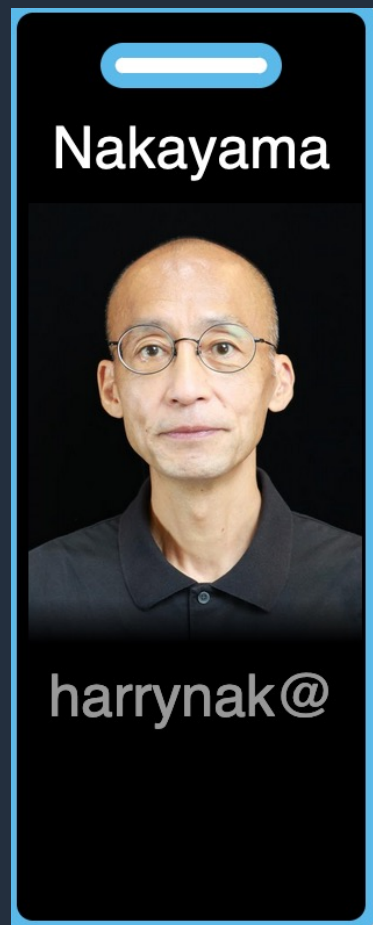
- ・ 製薬会社様向けデータ管理基盤構築支援
- ・ 金融業および製造業様向けクラウド技術研修

【好きなAWSサービス】

- ・ Redshift, QuickSight



サポートメンバーの紹介 (2/2)



中山 晴之

Data Analytics Consultant

【直近の参画プロジェクト】

- 電機メーカー様向け 在庫最適化
- SIer様向け 機械学習ワークショップ

【好きなAWSサービス】

- AWS Supply Chain

オープニングアジェンダ

- 事務局(NIT住木様)より一言
- AWSメンバー紹介
- **取り組みの目的と概要**
- Well-Architected Frameworkのご紹介
- 課題の紹介と取り組み方

取り組みの目的と概要

- AWSのWell-Architected Framework (セキュリティの柱)を理解する
- AWSのベストプラクティスに則ったレビュー力を向上する
- セキュリティに関するAWSサービスの概要と活用方式を習得する

AWS Well-Architected と 6 つの柱

フレームワークの概要

AWS Well-Architected Framework では、クラウド上でワークロードを設計および実行するための主要な概念、設計原則、アーキテクチャのベストプラクティスについて説明しています。いくつかの基本的な質問に答えると、アーキテクチャでクラウドのベストプラクティスがどの程度実践できているかを知り、改善のためのガイダンスを得ることができます。

[HTML](#) | [Kindle](#) | [ラボ](#)



本ワークショップを通じて得られるスキル

『ベストプラクティスに基づくAWS設計スキル』の獲得

- ビジネス要件に合わせたクラウドアーキテクチャを、W-Aに基づき適切に設計できる
- 第三者が作成した設計内容を理解し、W-Aに基づき適切な指摘ができる



オープニングアジェンダ

- 事務局(NIT住木様)より一言
- AWSメンバー紹介
- 取り組みの目的と概要
- **Well-Architected Frameworkのご紹介**
- 課題の紹介と取り組み方

Well-Architected Frameworkのご紹介

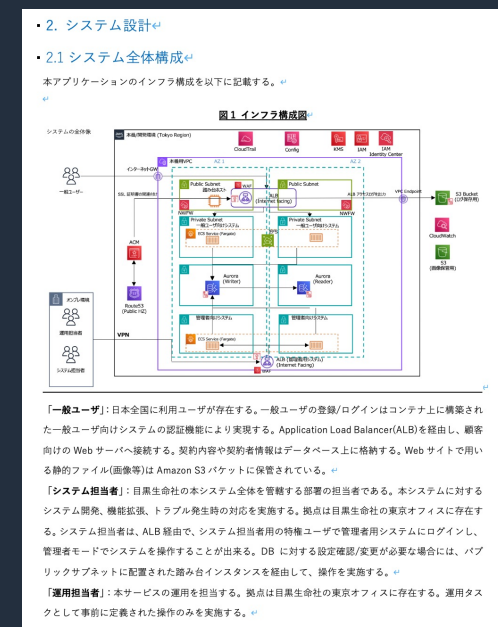
- 別資料「Well-Architected Frameworkのご紹介」を用いてご説明します。

オープニングアジェンダ

- 事務局(NIT住木様)より一言
- AWSメンバー紹介
- 取り組みの目的と概要
- Well-Architected Frameworkのご紹介
- 課題の紹介と取り組み方

導入

- 皆様は <チーム名> 株式会社に所属するITアーキテクトです。
- 普段から付き合いがある目黒生命のシステム部門は、皆様に対し、あるシステムを AWS クラウド上に構築予定であることを伝え、セキュリティ観点の設計レビューを依頼しています。
- 詳細な要件は 課題文書を確認してください。
- レビュー結果の作成期限は **本日15:15** です。それまでに課題を読み込み、必要なアウトプットを作成してください。



Input : 説明資料の見方

各レビュー観点のポイントとレビュー観点例を記載
(特に重要な観点については、参考資料を含む)

レビュー観点：セキュリティの基礎/アカウント環境の管理と分離 SEC01-BP01 アカウントを使用してワークロードを分ける

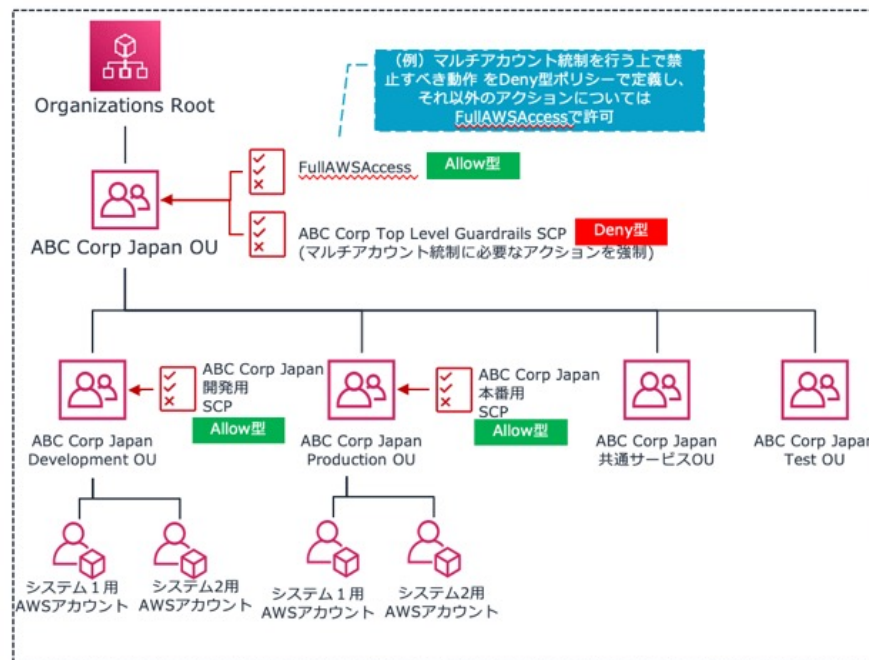
ポイント

- クラウド上で利用される様々なワークロードを一つのAWSアカウント上に配備してしまうと、アカウント間の干渉や誤操作による問題、データ漏洩などの原因となる可能性がある。
- ワークロードの種類ごとにAWSアカウントを分けて、適切な統制の仕組みを導入することで、全社的な統制レベルが向上する。

レビュー観点の例

- 複数のアカウント（マルチアカウント）によって、ワークロードや用途（本番、開発、テスト）の環境を分離されているか。
- アカウントに対する統制が行われているか
 - AWS Organizations**によってアカウントの階層構造を定義し、**SCP (Service Control Policy)** によって各アカウントの権限を制御しているか。（SCPを設定することで、各アカウントのルートユーザーに対しても、AWSの利用を制約することが可能）
 - AWS Config** や **AWS Security Hub** などの様々なサービスで、複数のアカウントにまたがった管理を実施しているか。
- 新しく作成するアカウントについても正しい設定が行われるか
 - Landing Zone** を設置し、**AWS Control Tower** により、テンプレートを利用して新しいアカウントを迅速にプロビジョニングすることができます。

アカウント階層構造の例



Input : チェックシートの見方

1.0	項目を満たしている
0.5	一部項目を満たしていない
0.0	項目を満たしていない
対象外	質問がワークロードの対象外

As-Is(観点を満たす) : 設計内容がWA観点を満たす場合、設計内容を記載
As-Is(観点を満たさない) : 設計内容がWA観点を満たさない場合、設計内容を記載
To-Be : 将来像として、あるべき設計方針を記載

...	判定	重要度	項番	観点	As-Is(観点を満たす)	As-Is(観点を満たさない)	To-Be
	1.0	3(高)			〇〇が〇〇になっている。	-	-
	0.5	2(中)			〇〇が〇〇になっている。	〇〇が〇〇になっていない。	〇〇は〇〇とする。
	0.0	2			-	〇〇が〇〇になっていない。	〇〇は〇〇とする。
	対象外	1(低)					
...			
合計スコア	xx						
達成率	xx%						

Output : チェックシートの埋め方

As-Isの整理 → 個人ワークで実施
To-Beの整理 → グループワークで実施

空白部分(以下オレンジ枠)を受講者が検討の上で記載する(全32項目)

※背景がグレーの項目は初めから記載済みであるため、検討不要
記載方式の参考サンプルとしてご活用下さい

判定	項番	観点	As-Is(観点を満たす)	As-Is(観点を満たさない)	To-Be
	1.1	・(観点1) ・(観点2) ...			
	1.2	・(観点1) ・(観点2) ...			
0.5	1.3	・(観点1) ・(観点2) ・(観点3)	・〇〇が〇〇になっている。 ・〇〇が〇〇になっている。	・〇〇が〇〇になっていない。	・〇〇は〇〇とする。
1	1.5	・(観点1)	・〇〇が〇〇になっている。	-	-

実施いただくこと②：検討内容の発表＋指摘

「As-Is/To-Beの整理」のまとめを各グループごとに項目を分けて発表
発表内容に対する指摘、質疑応答を行う

（各チーム、**質疑応答含めて15分**
5グループごとに実施）



発表チーム

- As-Isの整理内容とW-Aに基づく判定結果を発表(5-10分程度)
- To-Beの検討内容を発表
- 発表はチェックシート(Excel)ベースで可(余裕があればpptも可)
- (各グループに割り当てる項目は発表の約1時間前に連携)



それ以外のチーム

- As-Isの整理内容が正しいか確認
- To-Beの検討内容について鋭く指摘(5分程度)

検討のヒント

- 個人ワークではまずはAs-Isの整理から始めて下さい。
(余裕があれば To-Be検討に着手いただいても問題ありません。)
- レビュー観点の意味が分からなければ、説明資料を参照、または、講師に聞いてください。
- AWSの情報はインターネット上に多く散らばっています。公式情報や個人ブログなど、広く検索してみてください



個人ワーク

10:00	オープニング, W-A概要説明
11:00	個人ワーク(As-Is整理)
12:00	昼休憩
13:00	グループワークの実施 (To-Be検討)
14:00	
15:15	
15:15 – 16:30	
16:40 – 17:00	検討内容の発表
17:00 – 17:20	模範回答例の紹介
17:20 – 17:30	各チームへのフィードバック/QA
17:30 – 18:00	クロージング
	ご要望に応じて、QA対応(自由解散)

個人ワークの進め方【12:00まで】

- はじめに、各グループごとにアイスブレイクで自己紹介を実施してください(5分程度)
- 課題を読み要件を理解してください
(レビューチェックシートでAs-Isの観点整理をしながら課題を読み込むと効率的です)
- 全32項目のAs-Is整理を目標として下さい
(ただし、チームA,B,Cは前半(1.1)から、
チームD,Eは後半の項目(5.2)から着手ください)
- 休憩は各自自由にとってください



現在の進捗（11:00）

1

課題を読み込み、個人でAs-Isを整理する
(チームA,B,Cは前半(1.1)から、チームD,Eは後半の項目(5.2)から着手ください)

実施中

2

グループごとにAs-Isの内容確認とTo-Beの検討を行う

3

発表に向けて、各グループ担当の項目のTo-Beの精度を高める

4

(オプション)発表会に向けてプレゼンテーション資料を準備する

昼休憩 13:00から再開

10:00
11:00
12:00
13:00
14:00
15:15
15:15 – 16:30
16:40 – 17:00
17:00 – 17:20
17:20 – 17:30
17:30 – 18:00

オープニング, W-A概要説明
個人ワーク(As-Is整理)
昼休憩
グループワークの実施 (To-Be検討)
検討内容の発表
模範回答例の紹介
各チームへのフィードバック/QA
クロージング
ご要望に応じて、QA対応(自由解散)

グループワーク : To-Be検討

10:00	オープニング, W-A概要説明
11:00	個人ワーク(As-Is整理)
12:00	昼休憩
13:00	グループワークの実施 (To-Be検討)
14:00	
15:15	
15:15 - 16:30	検討内容の発表
16:40 - 17:00	模範回答例の紹介
17:00 - 17:20	各チームへのフィードバック/QA
17:20 - 17:30	クロージング
17:30 - 18:00	ご要望に応じて、QA対応(自由解散)

グループワークの進め方 【14:30めど】

- 個人ワークの結果を発表し合い、認識合わせを行ってください
- To-Beの検討をグループで相談しながら実施してください
- 各グループ内で相談して適宜休憩をとってください
- 判断に迷う部分があればAWS講師メンバーにご質問ください



現在の進捗（13:00）

1

課題を読み込み、個人でAs-Isを整理する
(チームA,B,Cは前半(1.1)から、チームD,Eは後半の項目(5.2)から着手ください)

2

グループごとにAs-Isの内容確認とTo-Beの検討を行う

実施中

3

発表に向けて、各グループ担当の項目のTo-Beの精度を高める

4

(オプション)発表会に向けてプレゼンテーション資料を準備する

検討内容の発表＋指摘

「As-Is/To-Beの整理」のまとめを各グループごとに項目を分けて発表
発表内容に対する指摘、質疑応答を行う

(各チーム、**質疑応答含めて15分**)
5グループごとに実施



発表チーム



- As-Isの整理内容とW-Aに基づく判定結果を発表(5-10分程度)
- To-Beの検討内容を発表
- 発表はチェックシート(Excel)ベースで可(余裕があればpptも可)
- (各グループに割り当てる項目は発表の約1時間前に連携)



それ以外のチーム



- As-Isの整理内容が正しいか確認
- To-Beの検討内容について鋭く指摘(5分程度)

検討内容の発表

10:00	オープニング, W-A概要説明
11:00	個人ワーク(As-Is整理)
12:00	昼休憩
13:00	グループワークの実施 (To-Be検討)
14:00	
15:15	
15:15 – 16:30	
16:40 – 17:00	模範回答例の紹介
17:00 – 17:20	各チームへのフィードバック/QA
17:20 – 17:30	クロージング
17:30 – 18:00	ご要望に応じて、QA対応(自由解散)

検討内容の発表＋指摘

「As-Is/To-Beの整理」のまとめを各グループごとに項目を分けて発表
発表内容に対する指摘、質疑応答を行う

(各チーム、**質疑応答含めて15分**)
5グループごとに実施



発表チーム



- As-Isの整理内容とW-Aに基づく判定結果を発表(5-10分程度)
- To-Beの検討内容を発表
- 発表はチェックシート(Excel)ベースで可(余裕があればpptも可)
- (各グループに割り当てる項目は発表の約1時間前に連携)



それ以外のチーム



- As-Isの整理内容が正しいか確認
- To-Beの検討内容について鋭く指摘(5分程度)

模範回答例の紹介

10:00	オープニング, W-A概要説明
11:00	個人ワーク(As-Is整理)
12:00	昼休憩
13:00	グループワークの実施 (To-Be検討)
14:00	
15:15	
15:15 - 16:30	
16:40 - 17:00	検討内容の発表
17:00 - 17:20	模範回答例の紹介
17:20 - 17:30	各チームへのフィードバック/QA
17:30 - 18:00	クロージング
	ご要望に応じて、QA対応(自由解散)

模範回答例の紹介

- 別資料「レビューチェックシート_模範回答例」を用いて、特に重要な観点についてご説明します。

各チームへのフィードバック/QA

10:00	オープニング, W-A概要説明
11:00	個人ワーク(As-Is整理)
12:00	昼休憩
13:00	グループワークの実施 (To-Be検討)
14:00	
15:15	
15:15 - 16:30	
16:40 - 17:00	検討内容の発表
17:00 - 17:20	模範回答例の紹介
17:20 - 17:30	各チームへのフィードバック/QA
17:30 - 18:00	クロージング
	ご要望に応じて、QA対応(自由解散)

各チームへのフィードバックとQ&A

- 以下時間割にて、各チームへのフィードバックおよびQ&A対応を行います
AWSメンバーが各グループの島(リモート部屋含む)へ付きますので
検討内容で気になった点やQ&Aがあればご質問ください

チーム名	時間	担当者
Aurora	17:00 – 17:10	AWS 棟近
Batch	17:00 – 17:10	AWS 吉濱
Cognito	17:00 – 17:10	AWS 中山
Dynamo	17:10 – 17:20	AWS 吉濱
Elb	17:10 – 17:20	AWS 中山

- AWS担当者がついていない時間帯に、お手数ですが以下作業を実施ください
 - 各グループで更新した最新版チェックシートをGoogleアカウントへ格納
 - ローカルに保存したファイルの削除(ゴミ箱を空にするところまで実施ください)

クロージング

10:00	オープニング, W-A概要説明
11:00	個人ワーク(As-Is整理)
12:00	昼休憩
13:00	グループワークの実施 (To-Be検討)
14:00	
15:15	
15:15 - 16:30	
16:40 - 17:00	検討内容の発表
17:00 - 17:20	模範回答例の紹介
17:20 - 17:30	各チームへのフィードバック/QA
17:30 - 18:00	クロージング
	ご要望に応じて、QA対応(自由解散)

取り組みの目的と概要

- AWSのWell-Architected Framework (セキュリティの柱)を理解する
- AWSのベストプラクティスに則ったレビュー力を向上する
- セキュリティに関するAWSサービスの概要と活用方式を習得する

AWS Well-Architected と 6 つの柱

フレームワークの概要

AWS Well-Architected Framework では、クラウド上でワークロードを設計および実行するための主要な概念、設計原則、アーキテクチャのベストプラクティスについて説明しています。いくつかの基本的な質問に答えると、アーキテクチャでクラウドのベストプラクティスがどの程度実践できているかを知り、改善のためのガイダンスを得ることができます。

[HTML](#) | [Kindle](#) | [ラボ](#)



AWS Well-Architected Framework の活用

- AWS Well-Architected レビューチェックシートと説明資料
 - Well-Architected レビュー時に活用できるExcelチェックシートと説明資料 (今回用にカスタマイズ作成)
 - 各観点を満たすための設計方式を具体的に確認可能
- 実案件での活用
 - レビューチェックシートを用いたレビューの実施
 - 説明資料の読み込みによるセキュリティサービスのスキル向上
 - セキュリティの柱以外の領域における Well-Architected Framework の利用

アンケートのお願い

- 本ワークショップに関するアンケートを後日お送りします。皆様のご意見をもとに、今後のワークショップ改善に繋げるため、お手数ですがアンケート回答のご協力をお願い申し上げます。



Thank you!

ご要望に応じて、QA対応(自由解散)

10:00	オープニング, W-A概要説明
11:00	個人ワーク(As-Is整理)
12:00	昼休憩
13:00	グループワークの実施 (To-Be検討)
14:00	
15:15	
15:15 - 16:30	
16:40 - 17:00	検討内容の発表
17:00 - 17:20	模範回答例の紹介
17:20 - 17:30	各チームへのフィードバック/QA
17:30 - 18:00	クロージング
	ご要望に応じて、QA対応(自由解散)

解散時のお願い

- 使用した資材の削除と保管をお願いします。
 - ローカルに保存したファイルの削除(ゴミ箱を空にするところまで実施ください)
 - 更新版チェックシートなど、後で見返す可能性があるものはGoogleアカウントへ格納ください
(Googleアカウントは2023/9月末までログインが可能です)
- 以下は各グループのテーブルに置いておいて下さい。
 - 名札
 - 入館証
 - 貸出PC、モニター
- 4Fゲート通過時に、AWS社員の帯同が必要になります。
ご帰宅のタイミングでお声がけください。